

## 結果をマニュアルで分析する

【測定】タブでは、特定の結果を確認する必要に応じてマーカーおよび測定タイプを設定できます。

3 希望する位置にマーカーを移動します（スクリーン上でマーカーをポイントしてドラッグするか、矢印ボタンを使用します）。

2 使用するマーカーを選択します。

1 タップするとマニュアルでイベントを作成します。

測定タイプを選択します。

グラフ概要ウィンドウ

結果

2.254 dB -52.1 dB

最大反射率:

4番イベントロス

イベント アイコン セリオン ORL

## ショートカット ボタン

ファイルを保存します

ファイルを開きます

前の波長

開く 保存 レポート

オンデマンドでレポートを生成します。

次の波長

前へ すべて 次へ

シングル トレース / 全トレース表示を切り替えます。

## 概要ビューを理解する

概要ビューは測定の結果を一目で確認したいときに役立ちます。  
【サマリ】タブをタップすることでアクセスできます。

テスト対象の波長

テスト ステータス

テスト詳細

リンク スパンの長さ

マクロバンド情報

詳細および圧縮ビューを切り替えます。

情報	1310 nm (9 μm)	1550 nm (9 μm)
非固有損失	2.254 dB	2.254 dB
ロス	1.2394 km	1.2394 km
ロス損失	2.827 dB	3.434 dB
ロスORL	39.19 dB	41.24 dB
バックスキャンロス	14.9 dB	13.9 dB
距離	2,500 km	2,500 km
ロス	10 ns	10 ns
遅延時間	46 s	46 s
日付	2013-09-20	2013-09-20
時間	9:45:04 AM	9:45:51 AM
平均損失	2.321 dB/km	2.448 dB/km
平均ロス損失	0.756 dB	1.015 dB
最大ロス損失	1.303 dB	1.019 dB

スパン長: 1.2394 km

マクロバンド位置: 1.1356 km

マクロバンドロス: 0.900 dB

## イベント テーブル アイコンについて理解する

下記のアイコンはテスト結果のイベント タイプを表します：

	スパン開始		スパン終了
	スパン終了		ランチ レベル
	連続ファイバ		ファイバ セクション
	分析の終了		マージされたイベント
	無反射イベント		エコー
	反射イベント		反射イベント (エコーの可能性あり)

© 2017 EXFO Inc. 無断複写・転載を禁じます。  
カナダで印刷 (2017-10)  
P/N : 1072561 バージョン : 4.0.0.1



## クイックレファレンスガイド

## OTDR

オプティカル タイム ドメイン リフレクトメーター

## テスト構成を調整する

測定を開始する前に、テストの構成を調整すべきです。

2 どのアイテムに変更が適用されるかを選択します。

1 タップします。

3 スト対象のリンクを構成します。

テスト構成

リンク設定 合格判定しだい

適用先: 次の測定

ファイルの特性

波長: 1310 nm/9 μm

屈折率: 1.467700

後方散乱: -79.45 dB

ヘリックス係数: 0.00 %

算出および含み込み

スパン開始を含みます

スパン終了を含みます

出力しだい

スパン開始: 0.020 dB

反射率: -72.0 dB

ファイバ終端: 5.000 dB

ファイバ終端反射の検出

マクロバンド

波長: 1310 nm - 1550 nm

デルタ(損失): 0.500

工場出荷時の設定に戻す

現在の測定結果にコピー

OK キャンセル

詳細は、ユーザーガイドを参照してください。



4 合否判定しきい値に含まれるアイテムを選択し、対応する値を設定します。



タップして他の波長に値をコピーします。

5 タップします。

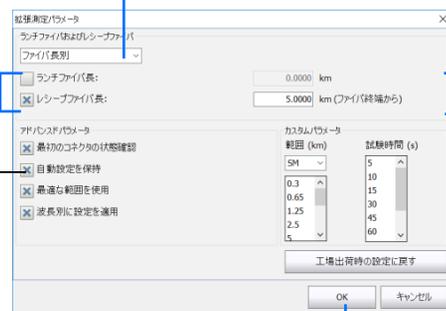
## ランチおよびレシーブファイバを定義する

ランチおよびレシーブファイバはファイバの最初と最後のコネクタを特徴づけるために使用されます。実際のスパンの開始および終了を設定するために役立ちます。



1 タップします。

2 変更を適用するアイテム (イベントまたはファイバ長) を選択します。



修正するアイテムを選択します。

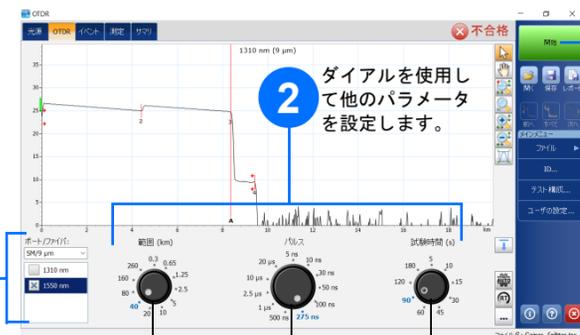
一旦測定が完了した後も自動設定をアクティブ化したままになります

4 必要に応じて修正します。

5 タップします。

## 平均化モードを使用する

平均化モードでは、ユニットは距離 (範囲)、パルス幅および試験時間に基づき一連の測定を実行し、結果をスクリーン上で平均化します。



1 テストの波長を選択します。OTDR モデルによっては、ポートも選択できます。

2 ダイアルを使用して他のパラメータを設定します。

3 【開始】をタップします。測定を中断するときは、【ストップ】をタップします。

結果を平均化する期間を設定します。一般的に、時間が長いほどトレースがきれいになります。

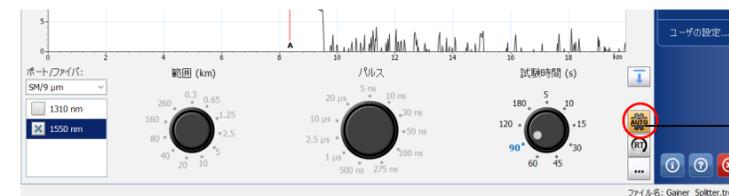
パルスは長いほどファイバの先の方まで届きますが、提供される分解能が減少します。

パルス幅と距離範囲のすべての組み合わせに互換性があるわけではありません。

## 自動設定機能を使用する

[AUTO] ボタンは、ユニットに現在接続されているファイバリンクに基づき、自動的に最適な測定設定を検証することで、ユニットを素早く設定するために役立ちます。【開始】をタップすると選択された設定が実行されます。

注記：自動設定機能を使用しているとき、画面の【パルス】および【距離】ダイヤルは利用できません。



タップして自動設定モードを選択します。

## リアルタイムモードを使用する

リアルタイムモードでは、ユニットがファイバリンクを監視して、変更の発生をただちに示します。このモードは一度に1つの波長でのみ利用可能です。



1 テストの波長を選択します。OTDR モデルによっては、ポートも選択できます。

3 ダイアルを使用して他のパラメータを設定します。

2 リアルタイム (RT) モードを選択します。

4 【RT 開始】をタップします。測定を中断するときは、【ストップ RT】をタップします。